

仏足石 (釈迦の一步)



ブダガヤの仏足石

インド・北東部の街ブダガヤ。ここでは、お釈迦様が悟りを開いた場所として、世界中の仏教徒が巡拝に訪れます。悟りを開いたその場所には、大きな菩提樹と「仏足石(ぶっそくせき)」と呼ばれる石があります。

かつて仏教では、お釈迦様の姿を直接描かないことが、お敬いの心を表すことでもありました。

しかしそれだけではなく、このお釈迦様の一步には重用な意味があったとされています。

悟りを開いた後、釈迦の前に梵天が現れ、「あなたが悟られた真理を多くの人々に伝えて欲しい。」と頼んだ。

しかしその直後に今度は悪魔が現れ、「難しい教えなど、誰も聞かない。無駄なことはやめて、真理を悟った喜びに一人でひたっている方がよいではないか。」と言ってきた・・・。

これは、「梵天勸請(ぼんてんかんじょう)」と言われる有名な逸話です。

インドに何度も行かれている八幡・妙法寺の安武真哉先生が、次のようなご法話をされているのをお聞きする機会がありました。

これは何かと云ったら、お釈迦様の心の中でしょうね。人間というのは、ある程度目的を達してしまったら、それから先がどうしていいかわからなくなるものなんです。お釈迦様も「さあ悟った。この後どうしよう」とお考えになったんでしょう。

それがとうとう立ち上がって、これをみんなに伝えようと一歩動かれるわけです。 **一歩動かれたところから、私はお釈迦様の本当の意味が出てきたと思うんです。**

もしお釈迦様がそこで「もういい、誰にも伝えまい」と思われていたら、2500年後の今、私たちには伝わってきていない・・・。

ここは、そういう場所です。私たちが遠くの日本で、2500年前のお釈迦様のみ教えを聞かせていただくということは、その一歩を踏み出されたからであります。



ブダガヤの大塔

お釈迦様でもためらわれた「初めの一步」。仏法と出遇い、私が生まれてきた意味を聞いていくことに、私たちがなかなか踏み出せないのは当たり前なのかもしれません。しかし、その一歩を踏み出した時に「本当の意味が出てくる」と、お釈迦様は教えてくださいます。

